

<クリスマスドロップ作戦> ロードマスター 初参加体験記

A loadmaster completes her first Operation Christmas Drop

December 21, 2021

By Tech. Sgt. Joshua Edwards
374th Airlift Wing Public Affairs

グアム・アンダーセン空軍基地発—
蒸し暑い中、サンタは太平洋の島々にプレゼントを届けに向かっていた。

ミクロネシア連邦とパラオ共和国の島民たちが待つ70周年のクリスマスドロップ作戦に参加したサンタの中には、第36空輸中隊ロードマスターのキム・ドイル上級空兵がいた。

「今回初めて参加した人道支援の任務は、人生を変えるような体験だった。横田では訓練と危機への備えに徹している身だが、この機会に恵まれ、任務に参加できたことを嬉しく思う」とドイル上級空兵は述べた。

ドイル上級空兵は、クリスマスドロップ作戦の任務の中で、荷台から眼下を見下ろして定めた投下地点の情報をC-130Jスーパーハーキュリーズのパイロットに伝えた。

「ロードマスターは危険な仕事をしている。彼らが機体の後方で日々任務を行なってくれていることに感謝している。ドイル上級空兵は妹のような存在だ。とても働き者で、何をすべきか、どう対処すべきか、自らの意見を我々に伝えることを恐れない」と、第36空輸中隊パイロットのハリソン・ロー中尉は語った。

彼女は幾度かの飛行で、C-130Hスーパーハーキュリーズを飛行する航空自衛隊の隊員たちに、任務を遂行する様子を見てもらう機会を得た。

ドイル上級空兵は、「現場でパートナー部隊の隊員たちと交流するのは楽しい経験だった。クリスマスドロップ作戦では、航空自衛隊員は彼らの輸送機とは多少異なる我々の輸送機に搭乗した。彼らに機内を案内し、違いに関する質問にも答えた」と語った。

今年、ドイル上級空兵は南東太平洋の55以上の離島に住む22,000人以上の島民に援助物資を提供する一端を担った。

そして「こうした活動に初めて参加したので、感慨深いものがあった。自分たちが、太平洋の島の人々を支援できていることを実感し、最高に素晴らしい経験ができた」と振り返った。

